

日本で投資拡大中の KKR は日立国際買収で相乗効果を生み出すか

—VALUENEX 技術トレンドレポート—

1. 日本で投資拡大中の KKR による日立国際電気買収

米投資ファンドのコールバーグ・クラビス・ロバーツ (KKR) は 2017 年 12 月 9 日、日立製作所 (6501) 子会社の日立国際電気 (6756) について、日立製作所が保有する 51.67%を除く日立国際電気の普通株式に対する公開買付けを完了したと発表した。日立製作所は事業再編の一環として本業との相乗効果が小さい企業の売却を続けており、日立国際電気もその対象となった。

KKR は近年日本企業の買収を活発化させている。2014 年のパナソニック (6752) のヘルスケア事業 (現・パナソニックヘルスケア) の買収を皮切りに、2015 年にはパイオニア (6773) の DJ 機器事業 (現・PioneerDJ) を買収したほか、2016 年 11 月には日産自動車 (7201) 系列最大手のサプライヤーであったカルソニックカンセイの TOB を発表した。さらに 2017 年 1 月には今回の日立国際電気と同じく日立製作所から日立工機の TOB を発表している。いずれも技術開発を行う企業であり、各社の間に技術開発上の相乗効果が見込める可能性がある。そこで本レポートでは、KKR 傘下のこれらの企業の国内特許出願を対象に、当社の提供する特許俯瞰解析ツール TechRadar により解析・可視化することを通じて、各社の間の相乗効果を探った。

なお、上記日立工機までの KKR による買収先企業に関する相乗効果については、2017 年 2 月 22 日発行の当社レポート「KKR は傘下企業間の相乗効果を起こせるか」を参照されたい。

2. KKR 傘下の日本企業による技術開発領域

TechRadar により解析対象とした特許情報は、出願人・権利者に「国際電気株式会社」、「日立電子株式会社」、「八木アンテナ株式会社」、「株式会社日立国際電気」、「日立工機株式会社」、「カルソニックカンセイ株式会社」、「カルソニック株式会社」、「株式会社カンセイ」、「パナソニックヘルスケア株式会社」、「パナソニックヘルスケアホールディングス株式会社」、「松下寿電子工業株式会社」、「パナソニック四国エレクトロニクス株式会社」、「Pioneer DJ 株式会社」のいずれかを含む 1993 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日までに公開された日本国公開特許公報約 38,000 件である。

TechRadar は、特許文献の内容の類似度を単語の出現傾向に基づいて算出し、その関係を二次元散布図上で距離として表現することができる。そのため、内容が類似した特許文献は近くに配置され、クラスターを形成する。一方、内容の類似性が低い特許文献は離れた位置に配置されるため、技術領域ごとの関連性を距離として捉えながら全体を俯瞰することができる。

これを踏まえて TechRadar による特許俯瞰図を見ると、KKR 傘下の日本企業が技術開発を行ってきた領域には、「熱交換器」や「圧縮機」などの自動車用空調に関わる領域、「電動工具」や「切断機」などの工具に関する領域、「通信システム」領域、「カメラ装置」領域、「印刷装置」領域、「基板処理装置」領域などがみられる。

これらのなかで日立工機は、「電動工具」や「充電装置」、「電子写真装置」などの領域を中心に分布している。また、カルソニックカンセイは「熱交換器」や「圧縮機」、「車両用計器」などの領域にある。パナソニック

ヘルスケアや PioneerDJ は公開件数が少なく、それぞれ「生体試料測定装置」や「ヘッドホン」領域などへの分布に留まる。これらに対し日立国際電気は、「通信システム」、「カメラ装置」、「基板処理装置」の領域を中心に分布している。

日立国際電気の買収により、KKR の技術ポートフォリオは更に拡大すると言える。

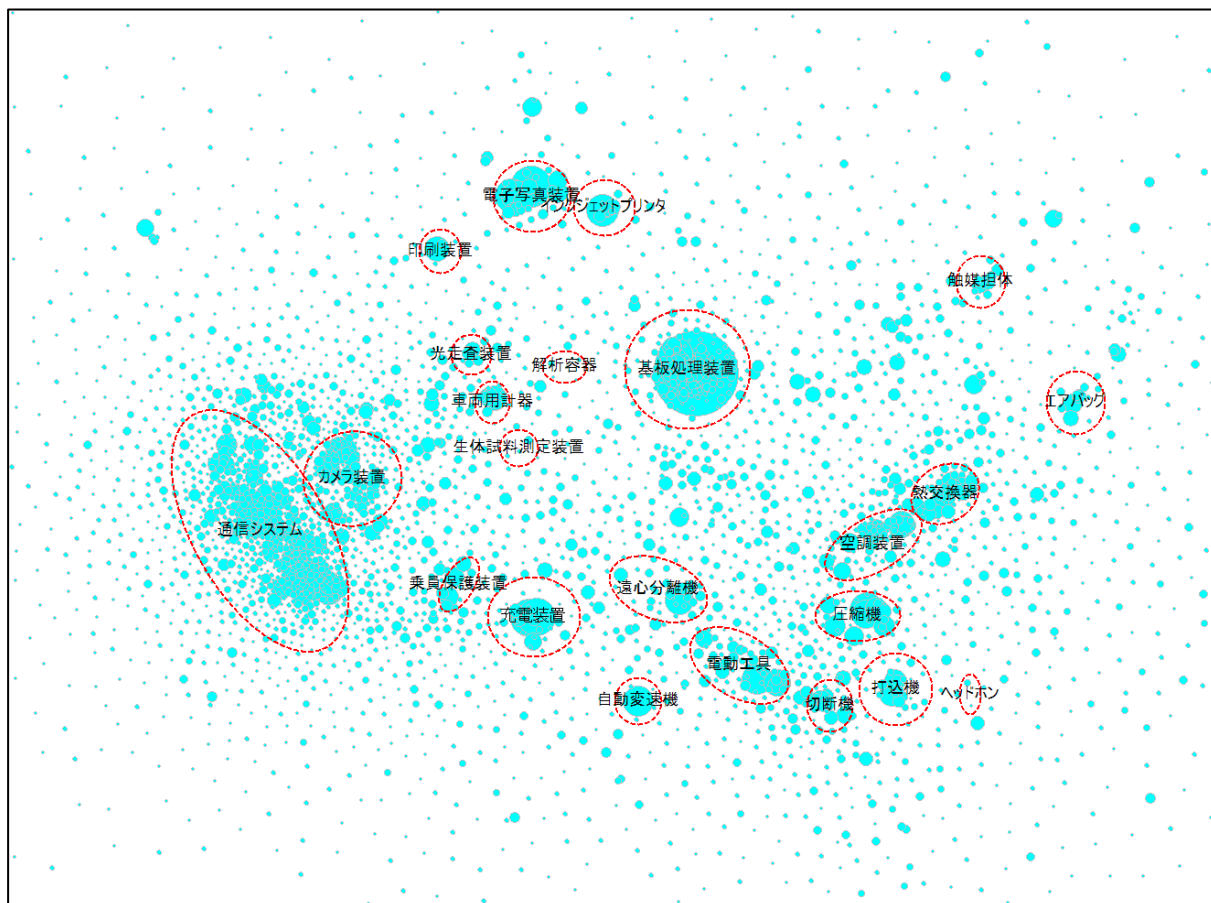


図 1. KKR 傘下日本企業 5 社の特許俯瞰図

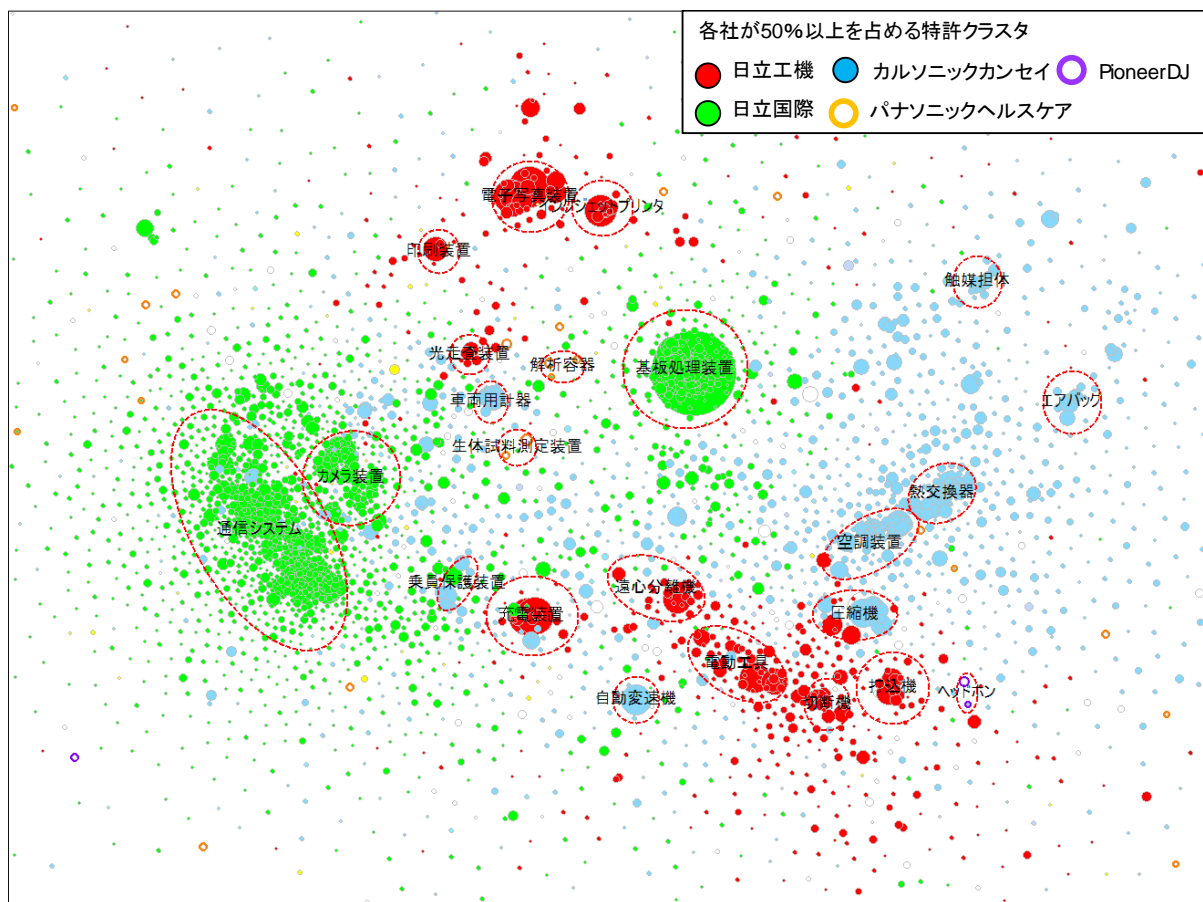


図 2. 各社が過半数を占めるクラスタの分布

3. 日立国際電気買収により技術開発上の相乗効果が期待される領域

公開件数の多い日立工機、カルソニックカンセイ、日立国際電気は、各社が過半数を占めるクラスタが大きく2つ以上の領域に分かれており、かつ互いに横断し合うような形で分布している。日立国際電気には、特にカルソニックカンセイとの間で互いに隣接して配置された特許出願が多く、「カメラ装置」、「乗員保護装置」、「車両用計器」などの領域の周辺においてその傾向が顕著である。しかし、隣接して配置された出願内容を概観しても、技術を組み合わせることにより新たな製品・サービスを生み出せる可能性があると考えられる事例は多くは見出だせなかった。強いて挙げるとすれば「充電装置」領域がある。ここでは、日立工機が「電動工具用充電システム」、カルソニックカンセイが「バッテリーの充電率推定装置」などの出願をそれぞれ行っている。これに対し日立国際電気は「携帯無線機の充電器」、「電気自動車充電システム」などの出願がみられ、電動工具などの小型電気製品向け、自動車向けにそれぞれ活用できる可能性がある、と言った程度である。

KKRは、日立国際電気の買収により技術ポートフォリオを更に拡大することはできたが、日立国際電気と他の傘下企業との間で技術開発上の相乗効果を生み出せる可能性のある領域は限定的であると言えそうである。

しかしながら KKR は、2014 年からの 4 年程度の間の名だたる日本の技術開発系企業を 5 社も手中に納めている。同社が今後も買収を続けるとすれば、今回の買収により拡大した技術ポートフォリオとの間で相乗効果が生じることとなり、新たな買収先との間で相乗効果が生み出される可能性は高まっていると言えるだろう。

<免責事項>

本情報は、情報の提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘することを目的としたものではありません。有価証券その他の取引等に関する最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行って下さい。情報提供元である VALUENEX 株式会社は、本情報を信頼しうる情報をもとに提供しておりますが、その内容に過誤、脱落等ありこれが原因により、または、本情報を利用して行った投資等により、お客様が被った、または、被る可能性のある直接的、間接的、付随的または特別な損害またはその他の損害について、一切責任を負いません。本情報の正確性および信頼性を調査確認することは、VALUENEX 株式会社の債務には含まれておりません。本情報の内容は、VALUENEX 株式会社の事由により変更されることがあります。本情報に関する一切の権利は、VALUENEX 株式会社に帰属します。本情報は、お客様ご自身のためにのみご利用いただくものとし、本情報の全部または一部を方法の如何を問わず、第三者へ提供することは禁止します。

VALUENEX 株式会社
〒116-0002 東京都文京区小日向 4-5-16
ツインヒルズ茗荷谷
TEL : 03-6902-9834

*弊社では ASP サービス(VALUENEX Radar)ならびに技術調査業務を行っております。
ご関心のある方は下記の連絡先までご連絡ください。

<問い合わせ先>

[VALUENEX 株式会社 ソリューション事業推進本部](#)

TEL:03-6902-9834

[mail:customer@valuenex.com](mailto:customer@valuenex.com)

<http://www.valuenex.com>

20180115SM